



各位

上場会社名
代表者
(コード番号
問合せ先責任者
(TEL

株式会社 オービス
代表取締役社長 御輿 岩男
7827)
取締役経理部長 中奥 淳史
084-934-2621)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年12月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成22年10月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年11月1日～平成22年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,975	△43	△102	△110	△63.87
今回発表予想(B)	4,510	△379	△436	△434	△250.85
増減額(B-A)	△464	△336	△333	△323	
増減率(%)	△9.3	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年10月期第2四半期)	4,383	△576	△639	△808	△466.99

平成22年10月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年11月1日～平成22年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,479	232	98	82	47.44
今回発表予想(B)	10,375	△381	△504	△508	△293.82
増減額(B-A)	△104	△614	△602	△590	
増減率(%)	△1.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年10月期)	8,092	△1,152	△1,295	△1,528	△882.77

平成22年10月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年11月1日～平成22年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,469	△117	△147	△153	△88.60
今回発表予想(B)	4,050	△442	△470	△466	△269.52
増減額(B-A)	△418	△324	△323	△313	
増減率(%)	△9.4	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年10月期第2四半期)	3,899	△650	△656	△855	△494.28

平成22年10月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年11月1日～平成22年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,490	113	37	25	14.48
今回発表予想(B)	9,445	△504	△567	△569	△329.12
増減額(B-A)	△44	△617	△605	△594	
増減率(%)	△0.5	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年10月期)	7,137	△1,252	△1,308	△1,463	△854.13

修正の理由

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、輸出や機械受注等の回復に伴って受注環境が回復の兆しを見せ、木材事業における製品出荷量は、前年同期比で25.2%の増加となりましたが、前回予想値に8.1%及ばなかったことに加え、競争の激化によって落ち込んだ製品販売価格の回復が遅れており、販売価格は前回予想値に3.1%届きませんでした。これにより木材事業の売上高は前回予想値より8.1%減少いたしました。

ハウス事業におきましては建設業界の受注環境は非常に厳しい状態が続いており、公共事業の賃貸物件は若干増加したものの、民需による販売物件の減少がはげしく、当第2四半期累計期間の売上高は、前回予想値より10.9%減少いたしました。

当第2四半期連結累計期間の利益につきましては、木材事業姫路工場の稼働率が緩やかな上昇をたどったため、原木消化量は前回予想値の91.8%にとどまり、単位当たりの製造経費は前回予想値より12.3%上昇いたしました。また、原材料であるニュージーランド松の価格が中国需要の急激な拡大により高騰したため、原木の単位当たりの価格が前回予想値より8.0%上昇し、収益を圧迫することとなりました。

ハウス事業におきましては、売上高の減少に加え、公共事業の賃貸物件における利益率が非常に低く、さらに当累計期間より開始した太陽光発電事業の初期費用も加わり、当第2四半期連結累計期間における売上総利益率は、前回予想値から4.9%下落いたしました。

通期の連結売上高につきましては、木材事業において当第2四半期より取り組んできた製品販売価格の値上げが下半期において効果を現し、下半期の製品販売価格が前回予想値より10.3%上昇する見込みとなると共に、チリ大地震の影響により競合製品であるチリ製材品の品薄感が強く、当社の下半期の製品出荷量についても前回予想値より2.7%上昇する見込みとなりました。これにより木材事業の通期の売上高は、前回予想値より2.5%増加する見込みとなりました。

ハウス事業におきましては、下半期においても引き続き厳しい状況が続くものと見込まれ、通期の売上高は、前回予想値より7.1%減少する見込みとなりました。

通期の利益につきましては、木材事業姫路工場の稼働率を更に上昇させることにより、下半期の原木消化量は前回予想値を1.4%上回る見込みとなり、単位当たりの製造経費は前回予想値から2.1%の上昇にとどまる見込みとなりました。しかしながら、前回予想値において下落を予想していた原木のFOB価格が高止まりを続けていることに加え、姫路工場の稼働率の上昇により増加する原木輸送を行うためのスポット船の用船料も高騰しているため、下半期の原木の単位当たりの価格が前回予想値より23.8%上昇する見込みとなり、通期の利益を圧迫する見込みとなりました。

第3四半期以降の為替レートは1ドル93円を見込んでおります。

なお、個別の修正理由は、連結と同様であります。

以上